

[平成23年11月26日]

第3回基礎ゼミプレゼン大会が開催される

2011年11月26日に経済学部ゼミナール協議会主催で第3回プレゼン大会が開催されました。今回は1年生の基礎ゼミが対象で、全23チーム（1ゼミで複数チームの参加も可能）が参加しました。各チームは自ら選んだ研究テーマについて、準備した成果をパワーポイントを使い発表し、教員による審査によって、会場ごと（7号館D31、D41、D42の各教室）に優勝・準優勝が選ばれました。

コンビニやケータイ、大学生の食生活や就職問題、札幌地下歩行空間のような我々にとって身近なテーマから、予防医療や新薬承認の遅れなど医療問題、円高による産業空洞化、少子高齢化問題、独裁国家での民主化問題などこの先の日本・世界について考えさせられるテーマまで幅広く、ユニークな題材が多かったのが印象的でした。

結果は、D31会場では板垣ゼミ・金魚ヘルパーズ、D41会場では歌代ゼミ・吉江組、D42会場では越後ゼミ・ヤングマウンテンが、それぞれ優勝の栄冠を勝ち取りました。特に金魚ヘルパーズの発表は、金魚すくいという一見唐突にみえるテーマを取り上げていますが、東日本大震災にともなうイベント自粛による養殖農家への影響を、実際の取材も含め丹念に明らかにしており、プレゼンの展開方法も含め興味深いものでした。

基礎ゼミナールで学んだ調査の方法やプレゼン技術を、ぜひ今後の専門ゼミでも生かしていった欲しいと思います。



[平成23年12月1日・12月22日] 労働経済論

労働経済論でシンポジウムがおこなわれる

経済学部では、不定期にさまざまなテーマでシンポジウム（以下シンポ）や公開講座が開催されています。今回は、12月に川村雅則准教授の授業（労働経済論）を使って開催された2つのシンポを紹介します。両シンポともに、学生たちがゼミで行った調査結果が報告されたほか、調査の協力団体である札幌地域労組関係者が講師に招かれて実施されました。

〈シンポ①〉『なくそう！官製ワーキングプア—民間委託・清掃事業と指定管理者の現場から考える』

家庭ごみの収集事業というのは、私たちの暮らしになくてはならない仕事です。もしこの仕事がストップしたら世の中はごみであふれかえってしまいます。でも市民にそのことが意識されることは多くありません。しかも市の仕事ですが、働いているのは、民間の清掃会社に雇用される労働者が多数であり、さらにそこでの雇用は非正規雇用が多くを占めるのが実態です。当然というべきか、賃金も低い水準です。背景には、清掃会社が市から受け取る委託料の水準が低いこと、自治体財政の悪化という事情もあり、年々委託料が引き下げられてきたことなどがあります。税金の節約を考えるならば、たしかに、経費は極力抑えることが望ましいかもしれませんが（最小の経費で最大の効果）。でも、そのことが結果として、働く人々の雇用や賃金・労働条件を軽視することになっていないでしょうか。本シンポでは、公共サービスのあり方が鋭く問われることとなりました。



●調査の結果 ▶ <http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/index> に掲載

〈シンポ②〉『若者よ、剣を取って生き抜け！—いまなぜ団結「剣」・労働組合か』

アルバイトは学生生活にとって欠かせないものになっているようです。適度なアルバイトはほどよいスパイスとなり学生生活を充実したものにするでしょう。ですが実際には、不払い労働、割増賃金の未払い、勤務シフトの一方的な変更や強制的な組み入れ、仕事のミスやレジの清算不足の弁償強要など、アルバイト上のトラブルは少なくありません。キャリア教育が強調される一方で、ワークルールが学校教育で教えられる機会がなく、学生自身に知識が欠如していることもトラブルの背景にあります。また、仮に知識があったとしても、ワークルールの遵守を求める・職場を改善していく、というのは、いくら労使対等原則が法律の文面に掲げられていても、実際には容易なことではありません。

そこで、札幌地域労組が日常受けている労働相談や労働者支援・組合づくりの実践を聞きながら、いざというときの身の守り方や職場の改善策を学ぶと同時に、私たちは仕事とどう向き合っていけばよいのか考えました。学生たちの真剣な顔つきをみて、こうした講話は、将来何十年にもわたって働き続ける上で重要なキャリア教育の一部であることをあらためて実感しました。



●札幌地域労組 ▶ <http://www.infosnow.ne.jp/~sgu/> を参考